

令和6年8月26日

養父市

第一学院高等学校 養父校から提出された資料及び学校視察等により学校評価を行ったので下記のとおり報告します。

## 記

### I 総合評価

近年の通信制高校は、勤労青年に高等教育の機会を提供する学校から、多様な学び方を求める生徒の学びの場へと変化してきた。平成20年に開校し、16年を経過した第一学院高等学校養父校においても、学校に行きにくい生徒だけではなく、学業とスポーツや文化活動との両立を図りたい、高校卒業の資格を得て次の進路につなげたい、全日制では叶わない時間的な余裕をもち自分のペースで勉強したいといった様々なニーズをもつ生徒が入学するようになっている。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたことに伴い、様々な制限が緩和または解除され、第一学院高等学校養父校においてはコロナ前と同様の教育活動が展開されている。地域の教育資源を活用した交流活動も積極的に進められ、地域に根ざした学校としてその地位を確立している。

しかしながら、令和6年7月10日に行われた文部科学省、内閣府、NPO法人全国通信制高等学校評価機構の点検調査では、18項目に渡って指摘を受け、「総じて、平成29年度の点検調査における指摘に対する対応について、例えば、多様なメディアを利用した学習により面接指導の時間数を10分の6まで免除した上でも面接指導の時間数が不足していた状況に対しては、『極めて例外的な取扱い』である面接指導時間数を10分の8まで免除するという方策を選択したり、特区区域の外で試験を実施していたことに対しては、年間を通じて学習することを想定しているにもかかわらず、添削指導が完了していない状態且つ、早い時期だと8月の集中スクーリングで実施したりと、効率的でコストをかけない方途を選択した結果、依然として不適切な状況にある。また、内容が不適切であるとした『体験学習』の内容については十分に見直すことなく、修得すべき単位数を減らしたのみであり根本的な改善には至っていない。関係法令やガイドラインの内容については遵守の上、高等学校教育として適切かという観点から、教育の質向上に向けて、所轄庁の指導・助言の下、是正することを強く求めたい。」との厳しい評価を受け、改善策を10月初旬までに報告するよう指示され、養父市としても改善を求めたところである。

指摘を受けた問題点の中には、学校経営の根本に関わるものもあるため、学校として早急に改善策をまとめることが求められる。

## II 学校の教育活動及び管理運営に関する事項

### 1 学校の概要（令和5年5月1日現在）

学校名	第一学院高等学校 養父校			
学校長	岡本 達治	理事・副校長 成田伸男(1) 本務教員 (60人) 校長(1) 教諭(56)・養護教諭(2) 兼務教員(97人)	本務事務員(21人) 事務長(1) 事務員(20) 兼務事務員(31人)	合計 209人
課程	通信制(単位制)課程(本科) 普通科			
生徒数	1年 736人	2年 1,197人	3年 1,627人	合計 3,560人
課程	通信制(単位制)課程 専攻科			
生徒数	保育士専攻	217人		合計 217人

### 2 学校目標

学校は建学の精神として、『常に素直な心』『夢を意識し、夢を持つ』『達成実感・貢献実感』をベースに教育理念である『生徒第一・1/1の教育』に基づき、独自の意欲喚起教育『プラスサイクル指導』を通じて生徒一人ひとりをプラスサイクル思考にし、夢を持ち、自分自身の将来を具現化できるように生徒の『学び』をサポートする。」を掲げている。教育理念の『生徒第一・1/1の教育』の実現に向けて不登校生徒一人ひとりに寄り添い支援するという姿勢は、近隣の中学校教職員にも意識改革をもたらしている。

### 3 学校評価について

年度末に、養父校教職員、直営の各キャンパス教職員及び東京本部教職員による自己評価を行い、その結果は学校のホームページに公表されている。

### 4 教育活動の状況

#### (1) 学習指導の状況

##### ア 年間指導計画について

- ・新型コロナウイルス感染症拡大のなか、学習管理システム(LMS)により年間指導計画に沿って授業が進められている。面接指導についても令

和5年度は予定通り全て実施できた。

- ・添削課題の提出期限、面接指導及び試験の実施日、多様なメディアを利用した学習にかかる報告課題の提出期限を年間指導計画に記載するよう指摘を受けており、改善が必要である。

#### イ 面接指導（スクーリング）について

- ・病気や事故、海外勤務等でどうしても時間が確保できない生徒について、NHKの教育番組や教科書出版社の教材など複数メディアの活用を視聴しレポートを提出させることで時間数の10分の8を減免することができるが、第一学院では一律にこれを適用し、10分の8減免して面接指導が行われている。文部科学省より改善するよう指摘を受けている。
- ・一部科目については40人を超える人数で実施されており、改善するよう指摘を受けている。
- ・時間割が1日当たり9単位時間という長時間で設定されており、改善するよう指摘を受けている。
- ・予定通り19回のスクーリングが実施された。登録生徒4,644人（本来参加すべき時に欠席したため最終回に再度登録されたものを含む）の内532人が欠席し、4,112人の生徒が受講した。その内71人の生徒が途中帰宅し4,041人の生徒が満了した。

#### ウ 添削指導について

- ・添削指導は学習管理システム（LMS）の活用により計画的に行われている。
- ・添削指導はほとんどがソフトによる自動採点で、誤答に対するコメントはほとんど用意された中から教師が選択するようになっている。生徒の学習理解に応じて適切なアドバイスを記載するよう、改善が求められている。通信教育の根幹をなすものであり、高等学校教育としての水準を確保するよう指摘されている。

#### エ 試験について

- ・令和5年度については、一部の科目について特区区域の外で試験を実施していたことが指摘された。新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行前に宿舍・交通機関を確保していた都合上変更が難しかったようであるが、令和6年度については、5類移行後に宿舍・交通機関の確保をしているため、すべて特区区域内で試験を行うとしている。
- ・面接指導で来校時の後半の期間に試験をするため、年度の早い時期に面接

指導を受ける生徒の中には、添削指導が完了していない状態で試験を受けるものがいた。令和6年度では面接指導までに添削課題を提出するように指導し、提出できていないものは後日、別日程で受けさせるようにしているが、これに対しては添削指導が年間を通じて計画されていることと矛盾するため、改善するよう指摘を受けている。

## (2) 進路指導について

- ・養父校と各キャンパスが連携をとり、生徒一人ひとりに応じたきめ細かな進路指導を行っている。
- ・進路未定の生徒に対しては、卒業後も継続した指導が行われている。

令和5年度卒業生進路先（令和6年5月1日現在）全体

種別	人数	種別	人数
大学	559	短期大学	40
専門学校	428	その他（職業訓練校等）	12
就職・その他	630		
合 計 1,669			

内 本校通学生

種別	人数	種別	人数
大学	8	短期大学	1
専門学校	10	その他（職業訓練校等）	1
就職・その他	24		
合 計 44			

## (3) 家庭や地域との連携について

- ・キャンパス生やモバイル生の保護者には月1回、各学習センター（キャンパス）・東京事務局から「学校通信」を、本校通学コース生の保護者には月1回、「学校便り わんわら」「保健だより」をタブレットにより配信し、生徒の継続的な学びをサポートしている。
- ・学校祭（五好祭）は、感染対策を実施した上で模擬店も含めて一日実施された。コロナ禍前に参加していた地元の行事「万灯祭」や南但馬警察交通安全ボランティアにも生徒が参加し、地域に貢献した。さらに令和5年度初めて農業体験で収穫した農産物を地元住民と一緒に販売することに取り組み、好評を得た。
- ・保護者や地域の代表などからなる評議員会が年1回開かれ、連携を深めながら

教育活動の改善が図られている。

- ・養父校及び各学習センター（キャンパス）では、第一学院高等学校公式ホームページを通じて、生徒の学習活動状況や進路状況等が公開されている。

## 5 学校管理運営の状況

### (1) 教職員について

- ・令和5年度より生徒80人に教職員1人を配置しなければならないことになっている。現在の生徒数では45人の教職員が必要で、養父校以外の施設（東京本部・直営連携サポート施設）に勤務する教職員に対して、業務内容を明確にした委嘱状を発行し、これを上回る人数の教職員を配置している。しかしこの度の調査で文部科学省から、サポート施設の教職員は本来当該施設の業務に携わっており、養父本校の教育に従事するものと認めることは困難であり、令和6年度末までに改善するようとの指導を受けている。

### (2) 研修の実施について

- ・学習管理システム（LMS）の使用に当たっては、使用方法だけではなく適切な添削指導のための研修が定期的に行われている。
- ・また、教科研修、生徒指導研修、進路指導研修、教務指導研修などの各研修を計画的に実施し、教職員の資質及び専門性の向上が図られている。

### (3) 事務管理について

- ・兵庫県の委託事務である就学支援金は、専任の職員2名によって適切に処理・管理されている。
- ・教員免許の管理表簿等についても学校設置会社㈱ウィザス大阪本社及び東京本部（第一学院高等学校東京事務局）と連携を図りながら適切に管理されている。
- ・法で定められている学校の備付表簿の中で、学校医執務記録簿、学校歯科医執務記録簿の不備が指摘された。

## III 学校設置会社による設置事業の状況

### 1 学校設置会社の役員及び株式の状況

別紙、事業報告のとおり。

株式会社ウィザスの令和5年度の事業報告では、経常利益は前年度より微減であったが、売上高は過去最高となり、堅調に推移している。

また、第一学院高等学校養父校に限った業績では、令和5年度は売上高、経常

利益ともに過去最高となっている。

## 2 学校の経営に必要な財産等の状況

別紙（当日配付）、事業報告のとおり。

光回線設備、高圧電気設備、消防設備、空調設備、LED照明設備、PC（30台）、大型テレビモニター、車両、除雪機、スクールセット（260セット）等、学校運営に必要な資産を有している。

## 3 面接指導等を実施した設備の状況

平成16年に閉校した旧大谷小学校の土地建物（土地6,527㎡・建物2,358㎡）を養父市と30年間賃貸借契約（～令和19年3月）を結び利用しており、校長室（1室）、職員室（3室）、事務室（2室）、一般教室（6室）、特別教室（3室）、図書室（1室）、PC室（1室）、保健室（1室）、サーバー室（1室）、体育館及びグラウンドを有し、適宜改修や修繕を加えている。

## 4 連携施設との協力・連携に関する状況

直営の24か所の学習センター（キャンパス）の教職員と連携をとり、校長の指導のもと学習支援、学校生活支援、また進路指導として生徒の希望進路に基づく大学等受験対策指導・就職指導など、一人ひとりに応じた丁寧できめ細かな指導を行っている。

## 5 特区計画による学校設置に係る地域への経済効果について

4,000人を超える生徒が養父市で面接指導を受講するので、これに関わる養父市の経済効果（大型バス借上げ費、スクーリング時の宿泊費・飲食費、体験学習講師謝金・材料費等）は、非常に大きい。また、地域消費経済効果額（市内で職員が個人で消費するものや納める税金）や「株式会社 ウィザス」が養父市に納める法人税もあり、養父市の経済の活性化に大きく貢献している。